



Daiwa House®
Group

報道関係各位

News Letter

2026 年 7 月 23 日

大和ハウス工業株式会社
代表取締役社長 大友浩嗣
大阪市北区梅田 3-3-5

「サステナビリティレポート 2026」発行 ～大和ハウスグループ「環境行動計画 2029」「社会性行動計画 2029」を策定～

大和ハウス工業株式会社（本社：大阪市、社長：大友浩嗣）は、2026 年 7 月 23 日、当社グループの ESG（環境・社会・ガバナンス）に関する取り組みや進捗などの情報を掲載した報告書「サステナビリティレポート 2026」を発行しました。

持続可能な社会の実現に向け、2055 年の創業 100 周年を見据えた“将来の夢”（パーパス）を策定し、「私たちが創り出したい世界」と「果たすべき役割」を明確にし、「地域社会の再生」や「サーキュラーエコノミー&カーボンニュートラル」など 6 つのマテリアリティ（重要課題）を特定しています。これらの実現に向け、財務価値の向上と ESG をはじめとする非財務価値の最大化を経営の両輪と位置づけ、サステナビリティへの取り組みを中長期的な企業価値創出に向けた重要な投資として、着実かつ継続的に推進しています。



サステナビリティレポート 2026

「サステナビリティレポート 2026」では、こうした当社グループの取り組みを ESG の各観点から体系的かつ網羅的に掲載しています。特に今回は、環境行動計画「エンドレス グリーン プログラム 2029（以下 EGP2029）」および社会性行動計画「エンドレス ソーシャル プログラム 2029（以下 ESP2029）」の策定に伴い、環境長期ビジョンと社会性長期ビジョンの見直し、内容を説明しています。長期ビジョンの見直しにおいては、環境および社会の重点テーマごとに、2055 年のありたい姿と 2035 年のマイルストーンを設定しています。

また今回は、当社グループが施設の設計・施工に携わった「大阪・関西万博」において、その取り組みを「環境・技術・人財」の 3 つの切り口で整理し、当社グループの強みの発揮と未来に向けた挑戦について特集しています。

当社グループは、当レポートをステークホルダー（お客さま、従業員、取引先、地域市民、株主など）との建設的な対話のためのコミュニケーションツールとして活用することで、社会的価値と経済的価値の両面から、あらゆる人々が生きる喜びを分かち合える世界の実現を目指します。

■ポイント

環境長期ビジョン・EGP2029 について

当社グループは、2055 年※1 に環境負荷“ゼロ”を目指す環境長期ビジョンの達成に向け、2026 年度に新たな環境行動計画「EGP2029」を策定しました。また、サステナブルな社会の実現を目指し、4 つの環境重点テーマを再設定しました。

当社グループは、この 4 つの重点テーマに対して、「調達」「事業活動」「商品・サービス」のすべての段階で取り組みを進化させ、環境負荷の低減と企業収益の拡大の両立を図っていきます。

特に「EGP2029」では、カーボンニュートラルとサーキュラーエコノミーを最重要テーマに掲げています。カーボンニュートラルでは、バリューチェーン全体で温室効果ガス排出量削減の取り組みを強化します。商品・サービスでは、国内においてはより高性能な「GX ZEH(-M)シリーズ」※2 の普及にチャレンジするとともに、従来国内で行っていた戸建住宅での省エネの取り組みを海外にも展開します。事業活動では自社施設の省エネ化と再エネの利用、CEV※3 導入による電化の推進を継続します。また、調達ではサプライヤーと共に温室効果ガス排出量削減に取り組むとともに、低炭素建材の採用を進めます。さらに、サーキュラーエコノミーの実現に向けて、新築建築物においては再生材の活用を推進し、既存建築物においては建築物の長寿命化を推進することにより、新規の資源投入量削減を図ります。

4つの環境重点テーマ

カーボンニュートラル
(気候変動の緩和と適応)



ネイチャーポジティブ
(生物多様性保全の
損失阻止と反転・回復)



サーキュラーエコノミー
(資源を循環利用する
経済活動)



水循環
(水資源確保と水害対策)



※1. カーボンニュートラルは 2050 年に環境負荷“ゼロ”を目指す

※2. ジーエックス・ゼッチと呼ばれる、従来の ZEH よりも高い省エネルギー性能を目指す新たな住宅の定義のこと

※3. クリーンエネルギー自動車

社会性長期ビジョン・ESP2029 について

当社グループは、社会性長期ビジョンにおいて、9 つの社会性重点テーマごとに 2055 年のありたい姿を新たに策定しました。あわせて、各重点テーマに対して 2035 年のマイルストーンを明確にし、多様なステークホルダーに関する課題解決に向けた取り組みを推進しています。

特に「ESP2029」では、労働安全衛生など一部のテーマについては対象を国内主要グループ会社までに広げています。人的資本関連テーマは、事業変革・グループの価値最大化や従業員の挑戦及び成長を支える土台の整備に取り組みます。また、人権については、人権デューディリジェンスのさらなる高度化を図るとともに、グループ会社が事業活動における人権への負の影響を適切に把握し、是正措置を自律的に実施していくことを目指します。

このように、ESP2029 に基づき、社会性領域に関する社会課題への対応をグループ一体で進めるとともに、企業価値の向上を加速させていきます。

9つの社会性重点テーマ

- 人財育成
- 働きがい・働きやすさ
- DE&I
- コンプライアンス
- 地域社会
- 労働安全衛生
- CS・品質
- サプライチェーン
- 人権

特集「万博への挑戦が未来をつくる」について

当社グループは、大阪・関西万博において総施工面積の約 20%にあたる施設の設計・施工に携わりました。本特集では、サーキュラーエコノミーを促進する仕組みづくりや高度な設計・施工技術、挑戦する人財を支える組織風土などを取り上げています。万博を通じて得られた知見や技術、人財面での成果とともに、それらを「次の挑戦」として未来へつなげていくことを紹介しています。

■サステナビリティレポート 2026

https://www.daiwahouse.co.jp/sustainable/library/csr_report/

■「サステナビリティレポート 2026」概要

「サステナビリティレポート 2026」は、サステナブル経営の実現に資するために、「説明責任の遂行」「適切な社外評価の獲得」「経営の改善への活用」の3つを目的に、ESG（環境・社会・ガバナンス）の各観点から取り組みを紹介しています。

■主な「サステナビリティレポート 2026」の内容

特集	万博の挑戦が未来をつくる
環境	環境長期ビジョン、環境行動計画（エンドレス グリーン プログラム）、総合（環境貢献型事業の拡大）、環境経営の基盤強化、自然環境との調和、資源循環・水環境保全、化学物質による汚染の防止、TCFD・TNFD への対応
社会	社会性長期ビジョン、社会性行動計画（エンドレス ソーシャル プログラム）、社会性マネジメント、人権の尊重、事業戦略と連動した人財の確保／育成、従業員の働きやすさと働きがい、DE&I、ソーシャル・インクルーシブなまちづくり、高品質かつ安全・安心な製品の開発・提供、持続可能な調達、安全・安心の徹底
ガバナンス	コーポレートガバナンス、内部統制、コンプライアンス、腐敗防止、リスクマネジメント、内部監査

■参考

●環境長期ビジョン

<https://www.daiwahouse.co.jp/sustainable/eco/vision/index.html>

●環境行動計画

<https://www.daiwahouse.co.jp/sustainable/eco/egp/index.html>

●社会性長期ビジョン／社会性行動計画

https://www.daiwahouse.co.jp/sustainable/social/communication_policy/index.html

お問い合わせ先		
広報企画部	広報グループ	0 6 （ 6 3 4 2 ） 1 3 8 1
	東京広報グループ	0 3 （ 5 2 1 4 ） 2 1 1 2